

環境科学系の学生が野外実習を実施しました

7月14日(日)、環境科学系1年次の必修科目「環境基礎ゼミ」において東京都八王子市タヤけ小やけふれあいの里で炭焼き実習を実施しました。この授業は環境科学系の導入科目として設置されており、地球環境、環境計画、生態・資源、環境化学の4つの専門分野概要について学んだのち、4年後の進路実現のためにどのような学生生活を送ればよいのかをフィールドワークやロードマップ(4年間の道程を記したもの)の作成を通して考えます。

今回は炭を題材に、竹林管理としての竹の間伐から、切り出した竹の有効利用として、先人の知恵の詰まった炭焼き手法を体験しました。

竹林の間伐では、東京都のグリーンキャンパスプログラムの一環として、東京都と日野市の協力のもと、地元の里山保全団体から、竹林が里山で無尽蔵に広がらないようにするための間伐方法について指導を受けながら、竹の切出しを実施しました。

次に、切り出した竹の炭焼きを行い、以前は里山と一体となっていた炭焼技術の歴史や実際の炭焼工程について、炭焼の普及活動を行う八王子のNPO団体から指導を受けることで、エコロジカルなエネルギーについて理解を深めることができました。



2019年度第1回学生との意見交換会を実施しました

6月26日(水)、オープンキャンパスにスタッフとして参加した学生との意見交換会を実施しました。

来場者に本学の魅力を理解していただきたいと、学生自ら心がけている高校生・保護者への接し方や、在学生だからこそ気づく業務への提案や改善点を自由に発言してもらいました。理工学部では学生とともに魅力あるオープンキャンパス実施を目指していきます。

■参加学生(以下5名)

神保 香苗子(物理学系)、冬賀 錦(生命科学・化学系)、柴崎 大雅(機械工学系)、大西 蓉(電気電子工学系)、伊藤 美羽(環境システム学専攻)



生命科学・化学系の学生がサントリーのビール工場を見学しました

7月20日(土)、生命科学・化学系2年生の必修科目「自立と体験2」で府中市の天然水のビール工場、東京・武蔵野ブルワリーを見学し、ビールができる工程を学びました。ビールの品質は厳選された麦芽・ホップ・天然水にあり、特に天然水醸造や酵素の働きにより、コクのあるこだわり製法(発酵)の仕組みもわかりました。またビール缶やペットボトルの再利用、水資源(天然水を育む森を守る)環境についても考えるよい機会となりました。

